

J.LEAGUE™ NEWS



© J.LEAGUE PHOTOS

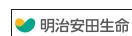
Jリーグの本格的なスポーツビジネス経営人材育成がスタート。第一期の受講生43人が集い、講座の開講式が行われた

スポーツビジネスの経営人材育成に本腰

「Jリーグ・立命館『JHC教育・研修コース』立命館マネジメント講座(基礎)」がいよいよ開講

Jリーグは今シーズンから「Jリーグヒューマンキャピタル(JHC)」として、スポーツビジネスの経営人材育成事業に本腰を入れる。その一環である「Jリーグ・立命館『JHC教育・研修コース』立命館マネジメント講座(基礎)」の開講式とキックオフイベントが、5月9日にJFAハウスで行われた。第一期生となる43人の受講者を前に、Jリーグの村井満・チアマンらが激励の言葉を贈った。講座は2016年2月25日(木)までの約9カ月間にわたり、毎週1回、平日(火曜または木曜)の夜間に立命館大学東京キャンパス(丸の内)、JFAハウス(本郷)で、立命館大学とJリーグが提供する諸科目を学ぶ。(2ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TITLE PARTNER



J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

JLEAGUE™
100 YEAR VISION
PARTNERLEAGUE CUP
SPONSORSUPER CUP
SPONSORJLEAGUE™ OFFICIAL
EQUIPMENT PARTNERJLEAGUE™ OFFICIAL
BROADCASTING
PARTNERSPORTS PROMOTION
PARTNERJLEAGUE™ OFFICIAL
TICKETING PARTNERJLEAGUE™
ASSOCIATE

「多士済々」の第1期生43人が集う



© J.LEAGUE PHOTOS

JFAハウスのバーチャルスタジアムで行われた開講式。緊張の中にも決意をみなぎらせた受講生

昨年5月、Jリーグと立命館大学は、教育・研究・文化・スポーツ振興と発展、人材育成など5項目の「業務提携に関する合意書」を取り交わした。「Jリーグ・立命館『JHC教育・研修コース』立命館マネジメント講座(基礎)」はそのうち、人材育成に関わる取り組みで、日本の



© J.LEAGUE PHOTOS

リーダーがグループのメンバーを紹介

プロスポーツクラブの将来を託す経営候補者などを育てることを目的としている。

受講生選考に携わったJリーグの村井満 チェアマンは「私を超える力を持っている人」を選考基準としたという。その力を見るために、いきなりホワイトボードを渡され、社長になったつもりで経営課題を述べるといった「通常の面接のシナリオは全く通用しない、生身の自分が試された」(チェアマン)手法も用意された。これについて村井チェアマンは「自分自身の体験を生かしたプログラム。私がいつもさらされている状況を再現しようと思った」と説明した。

そうして選ばれた第一期生は43人(うち女性は4人)。年齢は26~53歳で、平均年齢は38.0歳。職種もJリーグ選手OB、会社経営、国会議員秘書、フリーランスメディアなど多岐に

代表スピーチ



© J.LEAGUE PHOTOS

受講生代表の一人としてスピーチする中田氏

わたり、「よくこれだけ多士済々を集めた」という感動的な瞬間となった。受講生を代表してスピーチした4人のうち、選手として日本代表や鹿島アントラーズで活躍した中田浩二氏は「いつかは村井チェアマンを超えるように、(受講生)みんなで協力し、刺激し合い、励まし合って頑張っていきたい」と抱負を述べた。

開講式に続いて行われたキックオフイベントでは、受講生のグループ分けが行われた。さらに、グループごとに短時間で各自の情報を交換し、リーダーが全員の前でメンバーの自己紹介。時に笑いを取りながら的確な紹介に、「面白い個性を持っている人の集団」(チェアマン)の一端がうかがえた。こうして受講生同士もすっかり打ち解け、新たな仲間たちと新たなチャレンジへの第一歩を踏み出した。

受講生代表スピーチ

中田浩二 35歳、選手OB／クラブスタッフ

「僕自身は17年間、選手としてプレーしてきた。鹿島アントラーズ、日本代表だけでなく、欧州のフランス、スイスでも4年間プレーした。そこで見たもの、感じたものを(受講生)43人でうまく共有し、自分も皆さんが経験してきたものを吸収しながら、より良い講座となるように頑張っていきたい」

20代男性

「アメリカの大学に行き、初めて外からJリーグ、日本のスポーツを見て、あらためてJリーグの素晴らしさを感じた。(この講座では)最年少で社会人経験が少なく、皆さんから学ぶことが多いと思うが、このような機会を最大限に生かせるように頑張っていきたい」

40代女性

「学生時代まではサッカーに何の縁もなく、関心もなかったが、今や毎週末がJリーグを中心に動いている生活。スタジアムに来ないと分からぬわくわく感などを、より多くの方に持つてもらえるように、10ヵ月間学ぶことを踏まえて自分の力を発揮できたらいい」

50代男性

「素晴らしいコースを考えていただいた先生、スタッフの方々が想定した以上の講座をつくり上げていかなければならぬと思う。本当にいろいろなバックグラウンドを持つ人たちが結集した。10ヵ月間、切磋琢磨して協力し合えば、それができるのではないかと思う」

講義科目

前期(2015年5月9日~9月22日)【ビジネススクール科目、スポーツビジネス科目】

講義名	講義概要
ロジカルシンキング	変革を担うリーダーが保有すべき、構造化による問題発見、解決策の提案、アクションへの落とし込みなど一連の思考プロセスを習得する。
リーダーシップ論	組織の中の人間行動の特徴とそこに潜む心理メカニズムについて、現場で直面する問題と合わせて理解し、解決の方向性を探る。
コミュニケーション論	実習を通じてコミュニケーションに関する心理学的理論・概念の知識を習得する他、コミュニケーションがもたらす影響力について理解を深める。
スポーツファイナンス・アカウンティング	Jリーグの経営人材として求められるスポーツビジネスの「決算書を読む力」(財務状態の良否判断から事業計画の策定まで)の習得を目指す。
スポーツマーケティング論	マーケティングの基本的な概念を理解し、その上でスポーツ特有の課題や「プロサッカー」という興行を販売する際の特性について理解する。
人事・組織概略論	個人から組織に至るまでのビジョンの重要性、ビジョンの持つ力を理解し、将来的組織ビジョン、将来像を築き上げていく力を習得する。

後期(2015年9月26日~2016年2月25日)【Jリーグ・Jクラブ科目】

講義名	講義概要
プロサッカークラブマネジメント論① (Jリーグ、Jクラブ概論)	主にリーグの視点から、JリーグやJクラブについて理解を深める。過去に理事会が行った重要な意思決定などから、リーグの理念やガバナンスを学ぶ。
プロサッカークラブマネジメント論② (ビジネス領域)	Jクラブの経営領域のうち、ビジネスに分類されるものの(CSR、広告、チケットセールス、育成・普及)について、Jリーグの事例を基に理解を深める。
プロサッカークラブマネジメント論③ (スポーツ領域)	プロサッカーカービジネスの主な商品となる選手・チームとのパフォーマンスのマネジメントの他、経営的視点を交えた意思決定方法などを学ぶ。
特別講義	Jリーグおよびサッカーワールドを取り巻く環境を熟知したゲストを招いた集中講義の他、現場視察などを通じてJプロサッカーカーブ運営に対するアリティーを醸成する。

吉田美喜夫 学校法人立命館総長



© J.LEAGUE PHOTOS

「立命館は文化・教育・スポーツ活動を通じて信頼と連携を育み、地域に根差し、国際社会に開かれた学園づくりを掲げ、グローバルな視野とリーダーシップを備え、スポーツ健康科学分野、そして広く社会の発展に貢献できる人材の育成に努めてきた。Jリーグと立命館がこのプログラム策定にあたって一貫して重視したこととは、Jリーグやサッカーはもとより、他のスポーツ界やビジネスにおいてもリーダーとなる幅広いマネジメント能力を鍛えようという点。受講生の皆さんには日々、切磋琢磨し、日本のプロスポーツ界、ひいてはスポーツにとどまらない日本そのものの未来を担うリーダーになることを期待している」



CHAMPIONS LEAGUE

AFCチャンピオンズリーグ2015

柏レイソル、ガンバ大阪が準々決勝進出

今シーズンのアジアクラブチャンピオンを決める

AFCチャンピオンズリーグ(ACL)2015は、5月26、27日にホーム&アウェイのラウンド16第2戦を行い、準々決勝進出の8チームが出そろった。日本から出場した4チームのうち、柏レイソルとガンバ大阪が8強入り。今大会で複数チームがラウンド16を勝ち抜いたのは日本のみで、日本勢2チームの準々決勝進出は6年ぶりとなった。

グループステージのグループEを1位で突破した柏は、ラウンド16で水原三星ブルーワイングス(韓国)と1勝1敗、2試合合計スコアも4-4と並んだが、アウェイで挙げた得点数で上回り、2年ぶりに準々決勝進出を決めた。アウェイの第1戦で3-2と先勝後、ホームでは2点を



© J.LEAGUE PHOTOS

ラウンド16第2戦の65分、貴重な得点を決めて喜ぶ柏の小林。プロ初得点がチームを救った

		ACL 2015 ラウンド16 結果(左が第1戦のホームチーム。スコアは上段が第1戦、下段が第2戦)			
東地区	水原三星ブルーワイングス(韓国)	2-3 2-1	柏レイソル(日本)	F Cソウル(韓国)	1-3 2-3
	※1勝1敗、2試合合計スコア4-4、アウェイゴール数で勝る柏が準々決勝進出			※G大阪が2勝で準々決勝進出	
西地区	全北現代モータース(韓国)	1-1 1-0	北京国安(中国)	城南 F C(韓国)	2-1 0-2
	※全北現代が1勝1分で準々決勝進出			※広州恒大が1勝1敗、2試合合計スコア3-2で準々決勝進出	
ペルセポリス(イラン)	1-0 0-3	アルヒラル(サウジアラビア)	アルサッド(カタール)	1-2 2-2	レフティヤ(カタール)
	※アルヒラルが1勝1敗、2試合合計スコア3-1で準々決勝進出			※レフティヤが1勝1分で準々決勝進出	
ナフト・テヘラン(イラン)	1-0 1-2	アルアハリ(サウジアラビア)	アルアハリ(アラブ首長国連邦)	0-0 3-3	アルアイン(アラブ首長国連邦)
	※1勝1敗、2試合合計スコア2-2、アウェイゴール数で勝るナフトが準々決勝進出			※2引き分け、2試合合計スコア3-3、アウェイゴール数で勝るアルアハリが準々決勝進出	

リードされたが、MF小林祐介が蹴り込んだ追撃の1点がものをいった。値千金の得点をマークした20歳は「大事な試合で決められて良かった」と、プロとなって初の得点を喜んだ。

グループFを首位で通過したG大阪は、FCソウル(韓国)に2戦2勝で、優勝した2008年以



ラウンド16第2戦でG大阪の2点目を決める倉田。7年ぶりの準々決勝進出に大きく前進するゴールだった

来となる8強進出を果たした。アウェイの第1戦をFW宇佐美貴史の2得点などで3-1と快勝し、ホームの第2戦も3-2で連勝。FCソウルの反撃をしのいだ第2戦後、長谷川健太監督は「難しいゲームになったが、しっかり勝ち切ったのは大きい」と手応えを語った。

準々決勝の組み合わせ抽選は6月18日に行われる予定。浦和レッズ、鹿島アントラーズはグループステージで敗退した。

ACL 2015 今後の日程(予定)

準々決勝	・第1戦 8月25日(火)または26日(水) ・第2戦 9月15日(火)または16日(水)
準決勝	・第1戦 9月29日(火)または30日(水) ・第2戦 10月20日(火)または21日(水)
決勝	・第1戦 11月7日(土) ・第2戦 11月21日(土)

4月度の月間ベストゴール、月間MVPが決定

各月の明治安田生命J1リーグで最も優れたゴールを表彰する「月間ベストゴール」の4月度受賞ゴールに、ガンバ大阪のFW宇佐美貴史が1stステージ第5節の清水エスパルス戦(4月12日)で29分に決めた得点が選ばれた。月間ベストゴールは、年間で最も優れたゴールに与えられる「年間最優秀ゴール賞」のノミネートゴールとなり、同賞は12月に行われる2015 Jリーグアウォーズで表彰される。

また、各月の明治安田生命J1・J2で最も活躍した選手を表彰する「明治安田生命Jリーグ コカ・コーラ 月間MVP」の4月度受賞者に、J1はG大阪の宇佐美、J2はツエーゲン金沢のMF清原翔平が選出された。受賞選手には賞金として、J1は30万円、J2は20万円が授与される。



大活躍で月間ベストゴール、月間MVPのダブル受賞となったG大阪の宇佐美



清原はキャプテンとしてチームをけん引。5勝1分という4月の好成績に貢献した

2015 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ
名古屋グランパスが2節を残して予選リーグ突破

2015 Jリーグヤマザキナビスコカップ予選リーグは5月27日に第6節を終了し、名古屋グランパスが突破一番乗りを果たした。名古屋が2012年以来3年ぶりの決勝トーナメント進出を決めたのは、同20日に行われた第5節。アウェイで清水エスパルスに2-1の逆転勝ちを収めて勝点を13へ伸ばし、予選リーグBグループで突破に必要となる2位以上が確定した。現行の大会方式となった09年以降(11年を除く)、第5節での決勝トーナメント進出決定は最速の記録となった。

予選リーグ突破の争いは激戦。最終節を前にBグループのもう一つの座はヴィッセル神戸、モンテディオ山形、川崎フロンターレの争い。AグループはFC東京、アルビレックス新潟、湘南ベルマーレ、サガン鳥栖、サンフレッチェ広島の5チームが二つの枠を争うことになった。

決勝トーナメントは両グループ上位2位までの計4チームに、AFCチャンピオンズリーグに出場した鹿島アントラーズ、浦和レッズ、柏レイソル、ガンバ大阪を加えた計8チームで争われる。



名古屋(白)が予選リーグ突破を決めた清水戸

理事選任および役員人事について

公益社団法人日本プロサッカーリーグは、4月28日に第2回社員総会を開催し、嘉悦 朗氏、久米一正氏、野々村芳和氏、眞壁 潔氏を理事に追加選任した。大河正明常務理事は公益財団法人 日本バスケットボール協会専務理事および事務総長就任に伴い、5月21日付で理事（非常勤）となった。理事・監事・特任理事は以下のとおり。

理事・監事・特任理事

理事・監事	氏名	年齢	所属
チエアマン	村井 満 (むらい みつる)	55	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
専務理事	中野 幸夫 (なかの ゆきお)	59	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
常務理事	中西 大介 (なかにし だいすけ)	49	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
理事(非常勤)	有森 裕子 (ありもり ゆうこ)	48	株式会社RIGHTS. 取締役
理事(非常勤)	井畠 滋 (いばた しげる)	63	株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長
理事(非常勤)	上西 康文 (うえにし やすふみ)	59	白百合女子大学事務局長
理事(非常勤)	大河 正明 (おおかわ まさあき)	56	公益財団法人 日本バスケットボール協会 専務理事 / 事務総長
※理事(非常勤)	嘉悦 朗 (かえつ あきら)	59	横浜マリノス株式会社 代表取締役社長
理事(非常勤)	上川 徹 (かみかわ とおる)	51	公益財団法人 日本サッカー協会 理事
理事(非常勤)	木村 正明 (きむら まさあき)	46	株式会社ファジール岡山スポーツクラブ 代表取締役
※理事(非常勤)	久米 一正 (くめ かずまさ)	59	株式会社名古屋グランパスエイト 代表取締役社長
理事(非常勤)	小宮山 悟 (こみやま さとる)	49	野球評論家
理事(非常勤)	霜田 正浩 (しもだ まさひろ)	48	公益財団法人 日本サッカー協会 特任理事
理事(非常勤)	武田 信平 (たけだ しんへい)	65	株式会社川崎フロンターレ 代表取締役会長
※理事(非常勤)	野々村 芳和 (ののむら よしづか)	43	株式会社北海道フットボールクラブ 代表取締役社長
理事(非常勤)	原 博実 (はら ひろみ)	56	公益財団法人 日本サッカー協会 専務理事
理事(非常勤)	原田 宗彦 (はらだ むねひこ)	61	早稲田大学スポーツ科学学術院教授
※理事(非常勤)	眞壁 潔 (まかべ きよし)	53	株式会社湘南ベルマーレ 代表取締役会長
理事(非常勤)	村松 邦子 (むらまつ くにこ)	56	株式会社ウェルネス・システム研究所 代表取締役
監事(非常勤)	味村 隆司 (あじむら たかし)	56	株式会社日本国際映画著作権協会 代表取締役
監事(非常勤)	吉田 修己 (よし田 おさみ)	64	キヤノン株式会社 監査役 / 吉田公認会計士事務所
特任理事(非常勤)	宮本 恒靖 (みやもと つなやす)	38	元プロサッカー選手
特任理事(非常勤)	山本 浩 (やまもと ひろし)	62	法政大学教授(学部長)

※印 新任 役職別に五十音順 年齢は2015年5月21日現在

任期は2014年1月31日から同年3月12日および同年3月12日以降2年間
(定款第25条〔役員の任期〕:選任後2年内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時まで)

実行委員選任

Jリーグは4月28日に開催した理事会で、川崎フロンターレの実行委員会を武田信平氏から、薦科義弘(わらしなよしひろ)氏へ変更することを承認した。

実行委員		敬称略
クラブ名	変更前	変更後
川崎フロンターレ	武田 信平 株式会社川崎フロンターレ 代表取締役会長	藁科 義弘 株式会社川崎フロンターレ 代表取締役社長

参与選任

Jリーグは5月21日に開催した理事会で、2015年4月24日付で大阪サッカークラブ株式会社 非常勤取締役を退任（同年1月31日付でセレッソ大阪の実行委員を退任）した岡野雅夫（おかの まさお）氏を参与に選任した。

参与		敬称略
氏名	実行委員在任期間	
岡野 雅夫	実行委員	2012年2月～15年1月(在任期間2年11ヶ月)
	理事	2013年3月～15年1月(在任期間1年10ヶ月)

松本山雅FC、ガンバ大阪がホームタウンを追加

Jリーグは5月21日に開催した理事会で、松本山雅FCおよびガンバ大阪がホームタウンを追加することを承認した。松本は大町市、G大阪は池田市、摂津市、箕面市が新たにホームタウンとなった。

松本山雅FC ホームタウン		※太文字は追加された市
変更前	松本市、塩尻市、 山形村、安曇野市	変更後 松本市、塩尻市、山形村、 安曇野市、 大町市

ガンバ大阪 ホームタウン

変更前	吹田市、茨木市、高槻市、豊中市	変更後	吹田市、茨木市、高槻市、豊中市、 池田市、摂津市、箕面市
-----	-----------------	-----	--

Mr.ピッチ GWも大活躍



©J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

第29回全国少年少女草サッカー大会を後援

Jリーグは4月28日に開催した理事会で「第29回全国少年少女草サッカー大会」(主催:公益財団法人 日本サッカー協会、一般財団法人 静岡県サッカー協会、朝日新聞社など)を後援することを決定した。本大会は、スポーツの力で未来を育む「Jリーグ百年構想」と同じ理念のもと、全国のサッカー少年少女にプロ選手との交流、合宿、交流試合の機会を提供することを目的として、8月14日(金)~18日(火)に静岡県のIAIスタジアム日本平など37グラウンドで開催する。

日本クラブユースサッカー選手権(U-18/U-15)大会を後援

Jリーグは5月21日に開催した理事会で、公益財団法人 日本サッカー協会および一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟が主催する「日本クラブユースサッカー選手権(U-18/U-15)大会」を後援することを決定した。同大会は、日本の将来を担うユース年代選手のサッカー技術の向上と健全な心身の育成を図るとともに、クラブチームの普及と発展を目的とし、第2種および第3種加盟登録チームの全てが参加できる大会として開催されている。

U-18は7月22日(水)～8月1日(土)に群馬県、神奈川県で開催され、全国9地域の代表32チームが参加。U-15は8月3日(月)～12日(水)に北海道で開催され、同じく48チームが参加する。

メニコンカップ2015 日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)を後援

Jリーグは5月21日に開催した理事会で、「メニコンカップ2015日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)」(主催:公益財団法人日本サッカー協会、一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟、中日新聞社)を後援することを決定した。9月13日(日)に名古屋市瑞穂公園ラグビー場で行われる。

平成27年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を後援、
および「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動を協賛

Jリーグは5月21日に開催した理事会で、平成27年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動（主催：厚生労働省、都道府県、公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター）の後援について、また、同運動に併せて行われる「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動（主催：公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター）への協賛を昨年に引き続き実施することを決定した。国民一人一人に薬物乱用問題に対する認識を高めるなど、共に薬物乱用防止に関する運動で、6月20日（土）～7月19日（日）に実施する。

JCYインターナショナル(U-15)EAST、 JCYインターナショナル(U-15)WEST 2015堺市長杯を後援

Jリーグは5月21日に開催した理事会で、一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟が主催する「JCYインターナショナル(U-15)EAST」および「JCYインターナショナル(U-15)WEST 2015堺市長杯」を後援することを決定した。

これらの大会は、残念ながら日本クラブユースサッカー選手権大会に出場できなかったチームが参加できる競技会として位置付けられ、日本の将来を担うユース年代の少年たちのサッカー技術の向上と健全な心身の育成を図るとともに、クラブチームの普及と発展を目的として開催されている。EASTは8月4日(火)～6日(木)に茨城県の3会場で行われ、東日本地区の各地域代表16チームが参加。WESTは8月13日(木)～16日(日)に西日本地区の各地域代表32チームが参加して、堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター〔J-GREEN堺〕で行われる。

スポーツ・オブ・ハート2015を後援

Jリーグは5月21日に開催した理事会で、一般社団法人スポーツ・オブ・ハートが主催する「スポーツ・オブ・ハート2015」を後援することを決定した。同イベントは、障がい者スポーツがますます社会に広がっていく中、これまで関心のなかった層に広く伝え、普及・啓発・支援を目的とするもので、10月17日(土)、18日(日)に国立代々木競技場、都立代々木公園で開催。各種スポーツ体験教室、障がい者モデルファッションショーなどが行われる。

かんきょうみらいカップ2015 サッカー部門を後援

Jリーグは5月21日に開催した理事会で、環境未来カップ実行委員会が主催する「かんきょうみらいカップ2015 サッカー部門」を後援することを決定した。同大会は、環境教育の促進の一環としてサッカーに興味を持つ少年少女を対象とした次世代を担う児童に環境の大切さを知ってもらい、環境に関する行動喚起を目的とする。7月27日(月)に札幌サッカーアミューズメントパークで開催され、5人制フットサル大会や環境に関するクイズおよびリレーゲームなどが行われる。株式会社北海道フットボールクラブ(コンサドーレ札幌)が特別協力を行う。

第1回大宮アルディージャ 知的障がい者サッカー交流大会を後援

Jリーグは5月21日に開催した理事会で、大宮アルディージャが主催する「第1回大宮アルディージャ 知的障がい者サッカー交流大会」を後援することを決定した。7月5日(日)にNACK5スタジアム大宮で8チームが参加して開催される。

【訂正とおわび】 Jリーグニュース227号4ページの特別寄稿文中、以下の誤りがありましたので訂正し、関係者の皆さまにおわびいたします。
・本文右ブロック10行目 誤「前社長である大月さん」→正「大月先輩」・同13行目 誤「大月さん」→正「大月先輩」

「Kリーグ自治体懇談会」でJクラブ関係者らが講演



Kリーグクラブなどの関係者24人が日本の事例に学んだ
©Kリーグ

韓国・大田市のKT&G研修センターで4月8～9日に行われた「Kリーグ自治体懇談会」に鹿島アントラーズとファジアーノ岡山のクラブスタッフ、両クラブが関連する自治体職員が

招かれ、同リーグに所属する23クラブのスタッフや自治体職員を前に、ホームタウン活動について講演した。

Jリーグ講演では、まずJ1の鹿島の鈴木秀樹取締役事業部長が登壇し、ホームタウン5市を合わせて人口約28万人というマーケットの中でクラブが生き残るすべとして、ホームスタジアムの県立カシマサッカースタジアムを中心とした街づくりを挙げ、「サッカーのない日でも365日、いつでも地域の方々が集うコミュニティーをつくっていきたい」といった構想を述べた。

また、J2クラブを代表して岡山の小川雅洋常務取締役も講演し、イベント参加を中心とした自治体との連携事業のほか、クラブによる訪問活動などを紹介。地域との関係を構築するポイントとして「勝敗に左右されない関係づ

くりが大事」などとアドバイスを行った。質疑応答では特に両クラブが取り組んでいる公共施設の指定管理(※)について積極的な質問が寄せられ、参加者は真剣に聞き入っていた。

※鹿島は県立カシマサッカースタジアム、岡山は練習場としている政田サッカー場の指定管理者をそれぞれ務めている。



鹿島とホームタウンの連携について講演した鈴木事業部長
©Kリーグ

キャリアデザイン支援プログラム 2015年度 「Jリーグ版[よのなか]科」ファシリテーター養成講座 開講

Jリーグは2010年度より、Jリーグの人材育成活動における選手教育の取り組みとして(10～14年度は文部科学省委託事業として)、「Jリーグ版[よのなか]科」(正式名称:Jリーグをテーマに、競技者としてのキャリアを考える「キャリア・デザイン・サポートプログラム」)を実施している。

本プログラムは実施から5年を迎え、これまでに実施実績を有するクラブは50クラブ、参加選手は2746人に上り、93人のファシリテーターが誕生した。今年度は各クラブでの自主的な取り組みができる体制構築に向けての支援を行うと同時に、アカデミーコーチに向けた研修の実施展開を図る。

2015年度「Jリーグ版[よのなか]科」ファシリテーター養成講座 概要	
講 座 名	2015年度「Jリーグ版[よのなか]科」ファシリテーター養成講座
主 催	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
実施期間	2015年6～12月(予定)
実施場所	JFAハウス／対象クラブ クラブハウスなど
受 講 者	「Jリーグ版[よのなか]科」ファシリテーター候補者(5期生) 20人程度
講座内容	①「Jリーグ版[よのなか]科」プログラムの概要と基本的な考え方を知る 座学形式の講座 ②Jクラブアカデミーを対象としたモデル授業の見学 ③各クラブにおける全5回の授業実施を通じた実地トレーニング

カタール・スターズ・リーグとのパートナーシップ協定締結

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)は5月23日、カタールの首都ドーハでカタール・スターズ・リーグ(カタールリーグ)とのパートナーシップ協定を締結した。カタールリーグCEOのHani Taleb Ballan氏とJリーグの村井満チエアマンが出席して行われた。Jリーグが海外のプロリーグとのパートナーシップ協定を締結するのは、タイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、シンガポール、インドネシア、イラン、マレーシアに続いて9件目となる。

カタールでは、2022年にFIFAワールドカップの開催が決定している。今後、この協定をベースに、カタールとの育成面での交流を活性化し、同大会に向けた育成年代の強化活動を実施する。また、両国のフットボール発展のためにコミュニケーション、マーケティング、大会運営、アカデミーなどのさまざまな分野で協力し、プロリーグの組織、マネジメントの質向上と効率化を目指す。

2015年度 地域スポーツ振興活動および 介護予防事業への支援を追加決定

Jリーグは、Jクラブが実施するサッカー以外の地域スポーツ振興活動および介護予防事業に支援を行っており、3月10日申請締め切りとしていた追加分を含め、2015年度の申請分として26クラブ59件の支援を決定した。



鹿島とホームタウンの連携について講演した鈴木事業部長
©Kリーグ

Jリーグ選手等ホームタウン活動調査報告 2014年

Jリーグは、Jクラブが実施するホームタウン活動のうち、所属する選手、監督・コーチ、社長が、2014年1~12月に同活動に参加した状況を発表した。この調査は、J1・J2全40クラブのホームタウン活動担当者が、アンケートに入力して提出する活動記録を集計したもので、同活動への参加状況を回数・時間など詳細に把握したもの。クラブ間で情報を共有し、今後の活動に役立てるなどの目的がある。Jリーグは今後も、このような集計を通して選手、監督・コーチ、クラブ関係者のホームタウン活動を推進していく。(ここに紹介するのは調査結果の一部)

活動回数(時間) サマリー

※選手、監督・コーチ、社長の総活動回数は、それぞれ1人あたりの実施回数の総計

選手 監督・コーチ	総活動回数 3,765回	2013年(3,762回)から微増し、09年から増加傾向。 1クラブあたり平均活動回数 94.1回	2013年(94.1回)と同じく、09年からの調査で過去最多。 月平均活動回数 313.8回	2013年(313.5回)から微増し、14年の最多活動月は6月の424回。
選手	総活動回数 1,219人	2013年(1,215人)より4人増加。1クラブ平均は30.5人。 総活動時間 24,333.0時間	2013年(25,613.4時間)から1,280.4時間減少。1回あたりの活動時間が減少。	1人あたり平均活動時間 20.0時間
総活動回数※ 16,706回	1クラブあたりの平均選手活動回数 148回	選手1人あたりの平均活動回数 13.7回		
1クラブ平均活動人数 30.5人	1クラブあたりの平均選手活動時間 608.3時間	最多活動回数 榎本 哲也選手(横浜F・マリノス) 47回		
1活動あたりの平均活動時間 1.5時間	最長活動時間 永坂 勇人選手(コンサドーレ札幌) 66.0時間			
監督・コーチ 総活動回数 638回	2013年(576回)から62回増加し、1クラブあたり16.0回の活動を実施。	社長 総活動回数※ 3,137回	2013年(2,656回)から481回増加し、09年から毎年増加傾向。	

活動回数 経年比較

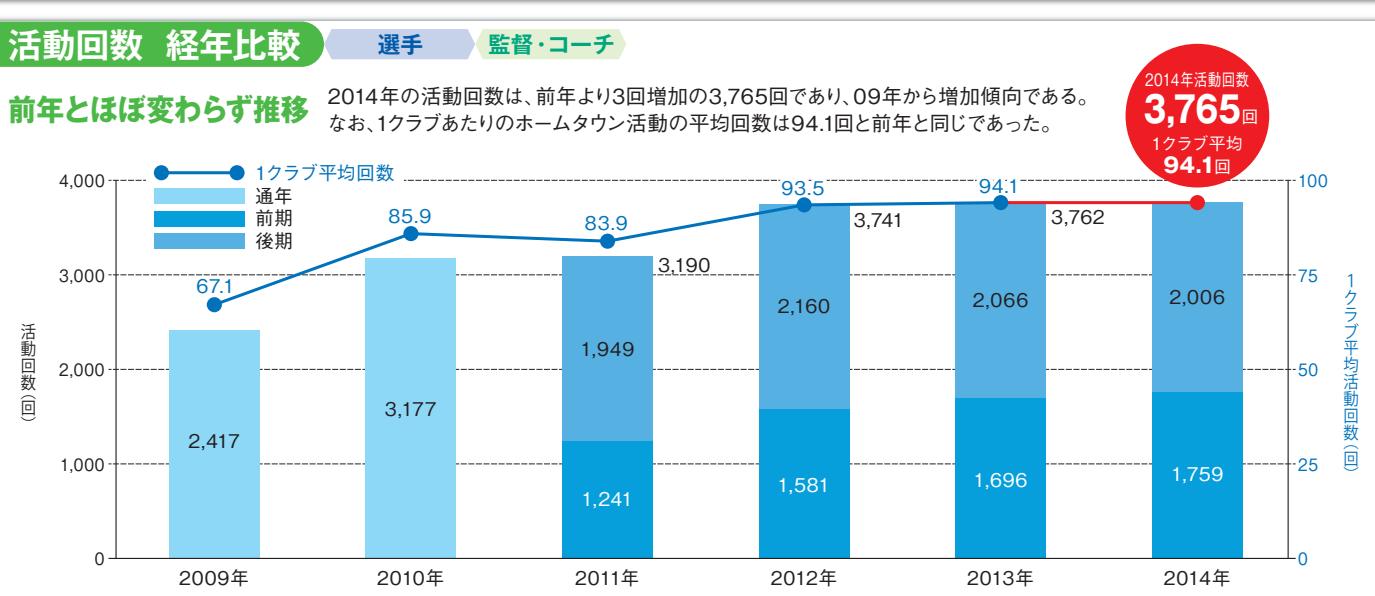
選手

監督・コーチ

前年とほぼ変わらず推移

2014年の活動回数は、前年より3回増加の3,765回であり、09年から増加傾向である。なお、1クラブあたりのホームタウン活動の平均回数は94.1回と前年と同じであった。

2014年活動回数
3,765回
1クラブ平均
94.1回



クラブ別活動回数 詳細

最多活動クラブはジュビロ磐田(245回)

選手

監督・コーチ

2014年は、前年より20クラブの活動回数が増加し、愛媛FCは前年から201.2%増加の163回の活動を行った。

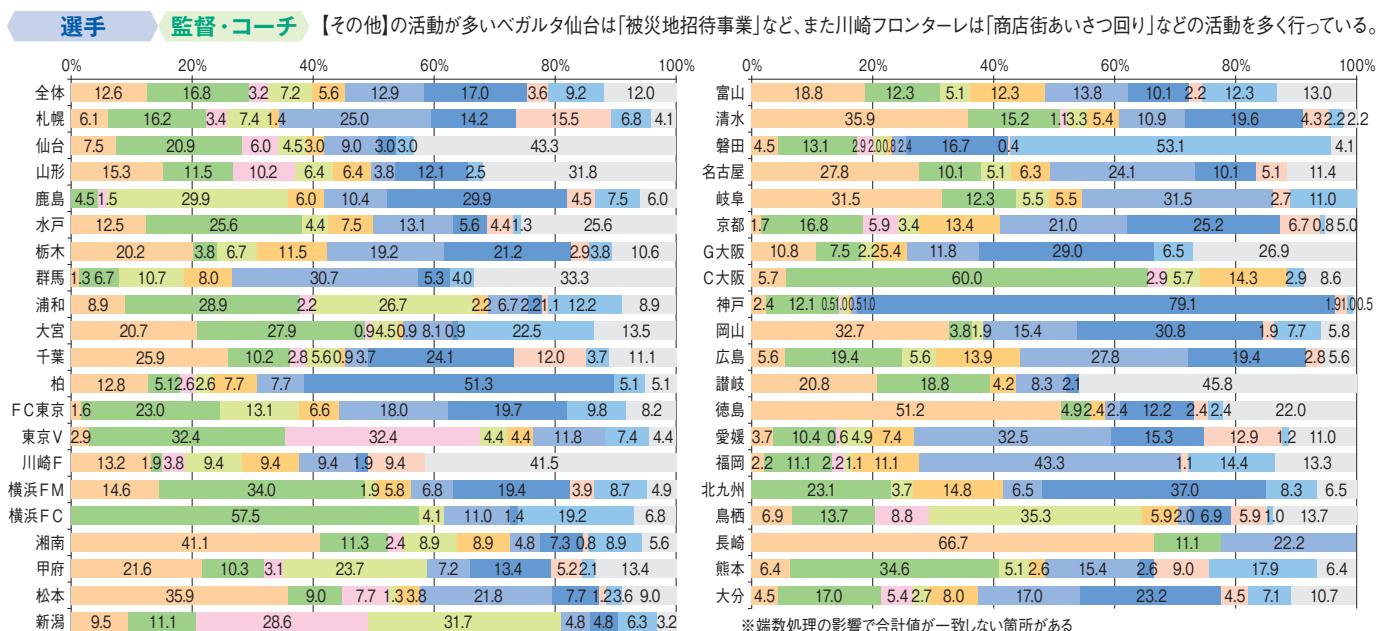
2013年 活動回数	2014年		
	活動回数	2013年差	2013年比
全体	3,762	3,765	3 100.1%
札幌	141	148	7 105.0%
仙台	64	67	3 104.7%
山形	150	157	7 104.7%
鹿島	69	67	-2 97.1%
水戸	118	160	42 135.6%
栃木	116	104	-12 89.7%
群馬	105	75	-30 71.4%
浦和	91	90	-1 98.9%
大宮	64	111	47 173.4%
千葉	92	108	16 117.4%
柏	24	39	15 162.5%
FC東京	59	61	2 103.4%
東京V	54	68	14 125.9%

2013年 活動回数	2014年		
	活動回数	2013年差	2013年比
川崎F	70	53	-17 75.7%
横浜FM	111	103	-8 92.8%
横浜FC	86	73	-13 84.9%
湘南	90	124	34 137.8%
甲府	100	97	-3 97.0%
松本	62	78	16 125.8%
新潟	71	63	-8 88.7%
富山	163	138	-25 84.7%
清水	156	92	-64 59.0%
磐田	141	245	104 173.8%
名古屋	72	79	7 109.7%
岐阜	62	73	11 117.7%
京都	103	119	16 115.5%
G大阪	189	93	-96 49.2%

2013年 活動回数	2014年		
	活動回数	2013年差	2013年比
C大阪	22	35	13 159.1%
神戸	251	206	-45 82.1%
鳥取	119		-119 -
岡山	47	52	5 110.6%
広島	42	36	-6 85.7%
讃岐	-	48	- -
徳島	65	41	-24 63.1%
愛媛	81	163	82 201.2%
福岡	94	90	-4 95.7%
北九州	88	108	20 122.7%
鳥栖	62	102	40 164.5%
長崎	56	9	-47 16.1%
熊本	99	78	-21 78.8%
大分	113	112	-1 99.1%

※鳥取は2014年度からJ3リーグ

活動ジャンル クラブ別傾向と定義 最多活動回数のジュビロ磐田は【表敬訪問】を積極的に行っている

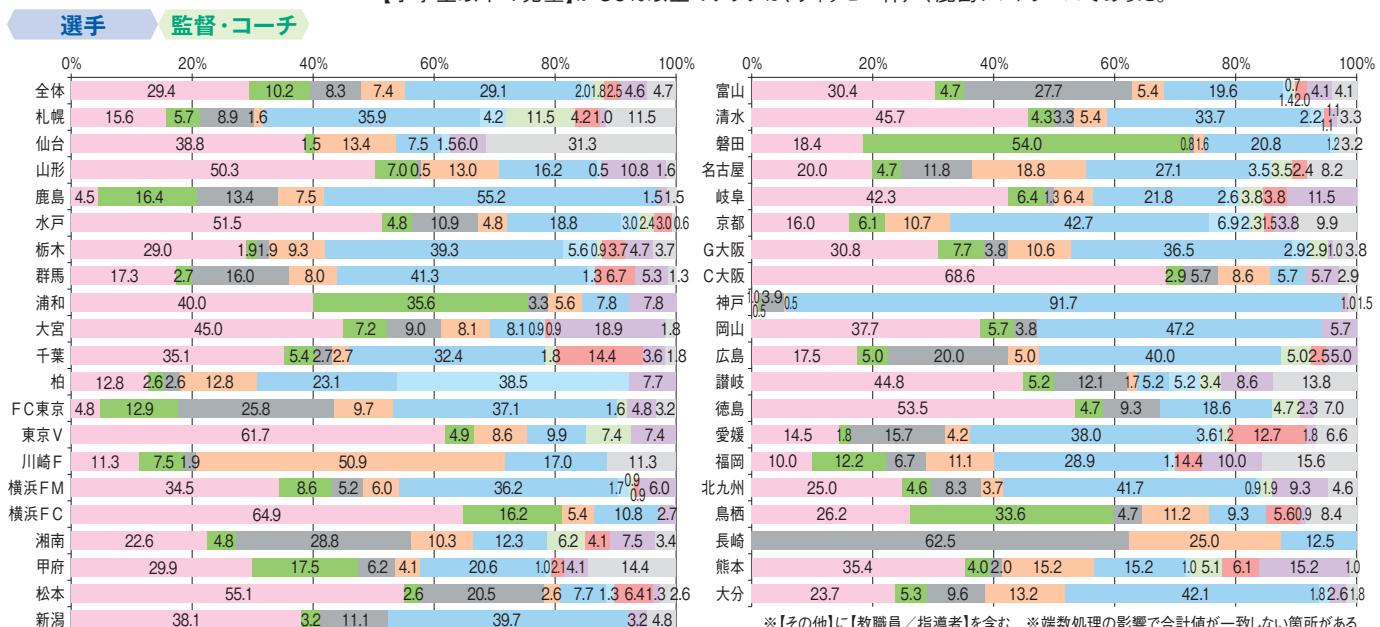


※端数処理の影響で合計値が一致しない箇所がある

サイン会／トークショー	ファンサービス	支援団体／ボランティア関連活動	スポンサーイベント	地元イベント
選手によるサイン会やトークショーへの出席、試合前に行われるサイン会など	握手会、写真撮影会、スタジアムツアーや、試合前イベント、一日店長など	クラブの支援・ボランティアを行う団体、またはその活動に対する協力など	スポンサー対象のインナーコースイベント、スポンサー限定招待のクラブ主催パーティーなど	いじめ防止など社会啓発活動・キャンペーンへの協力、祭り、投票・納税の呼び掛けなど
サッカー教室／イベント	学校訪問	福祉活動	表敬訪問	その他
クラブ運営のサッカースクール、地元サッカー協会のイベント出席など	主に小学校や中学校への訪問活動など	献血キャンペーンへの協力、福祉施設・病院への訪問、障がい者／高齢者向けの活動など	スポンサー本社、県庁、市役所、区役所などへの訪問	スポーツ教室／イベント、講演、チャリティーイベント、環境活動、集客活動など、9ジャンル以外の活動

活動対象 クラブ別傾向

【ファン／サポーター】対象の活動が60%以上のクラブは、セレッソ大阪、横浜FC、東京ヴェルディの3クラブで、【小学生以下の児童】が50%以上のクラブは、ヴィッセル神戸、鹿島アントラーズであった。



※【その他】に【教職員／指導者】を含む ※端数処理の影響で合計値が一致しない箇所がある

■ ファン／サポーター ■ スポンサー／株主 ■ 不特定 ■ 地域住民 ■ 小学生以下の児童 ■ 中学生以上の生徒 ■ 保護者 ■ 障がい者／高齢者 ■ 行政 ■ その他

活動の様子



横浜FMが東日本大震災復興支援活動の一環として継続する「サッカー教室」。右は榎本哲也選手

©Y.F.M に名波 浩監督(手前)、選手らも出場

磐田が磐田市などと共に開催する「地元イベント」の市民マラソン

©JUBILO IWATA

愛媛の「学校訪問」。小学校で生徒たちと給食を共にしながら食育活動を実施する大西勝悟選手

©EHIME FC

Jリーグ・アンダー22選抜の現在地

リオデジャネイロオリンピックへの出場を目指す世代の強化や高卒選手の公式試合出場機会の創出などを目的に「Jリーグ・アンダーニー22選抜（J-22）」が結成されて、2014シーズンより新たに始まった明治安田生命J3リーグに参入している。

当初の予想では、J1・J2クラブに在籍する選手たちは、若手とはいえ明治安田J3で上位に位置すると思われたものの、昨シーズンは全12チーム中10位（9勝6分18敗）に終わり、今シーズンも第13節終了（5月24日）時点でわずか2勝（2分8敗）と苦戦が続いている。昨シーズンまでJ2の横浜FC監督を務め、選手としては日本代表で活躍した山口素弘氏が、第7節の対FC町田ゼルビア戦（4月26日）を視察。J-22の成果や課題などについて話してもらった。（聞き手：Jリーグ広報部 吉田国夫）



試合終了後にJ-22の指揮を執る高畠監督（右）と話す山口氏

—— 第2節でレノファ山口FCに0-8と敗れたのに続き、町田戦も0-6と大敗。こうした経験は選手たちにとってどのような意味を持ちますか。

山口 選手がこれだけやられたことや、これだけしかできなかつたことをどう感じるかが大事。自分だったら、これだけやられるとかなり悔しい。

—— 選手たちに足りないものは何でしょう。

山口 基本的なこと。先日の霜田さん（日本サッカー協会技術委員長）の話にもあったとおり、ボールを奪われたら奪い返す、走る、前に行く、戻るなど、普通のことが徹底できていない。



若い選手にとっては貴重な真剣勝負の機会となる

そこそこにしかできていない。

—— チームは初年度、期待されたものの結果が伴わなかった。そして2年目の今シーズンも厳しい状況。その理由をどう考えますか。

山口 J3クラブのレベルが上がっていることは確か。今日の町田など、J2昇格に向けた準備ができているチームもある。そこには、相馬（直樹、町田監督）や栗原（圭介、福島ユナイテッドFC監督）など指導者のレベルも上がっている背景が考えられる。

—— 毎試合メンバーが入れ替わるいわば「寄せ集め」のチームが3~4日の間で勝つた

めには組織として、個人として何を求めればいいでしょう。

山口 意識付けを徹底すること。大きな戦術とかではなく、指針を出したら良いのではないか。日本代表の（ヴァイド・）ハリルホジッチ監督が言うように勝ちにこだわって、走る、縦に行くななど、代表に準じることで良いのでは。U-22代表など各年代で一貫したものここでもやればいい。誰が監督をしても、誰が選手として集まつても、変わらない指針があって、それにプラスアルファで個々の部分を加えていくことが大事。高畠（勉）監督もそこは意識していると思う。

—— 現在のこのような状況で、「Jリーグ・アンダーニー22選抜」の意義とは。

山口 所属クラブで出場機会のない選手が経験を積むためには必要な存在。昨年、（横浜FCの）監督としてクラブから選手を2人出ましたが、私は、チームの選手がプレーした試合映像を取り寄せてスタッフと一緒にチェックし、選手と振り返りをしていた。（所属選手が）退場になった試合は、「～だから退場になったんだよね」とか、途中出場した選手には「チームとしてどういった意図でのタイミングで入ったと思うか」、「入ってどうしたら良かったか」などディスカッションをした。所属クラブと選抜チームが連携をより高められれば、選抜チームの重要性は増すだろう。

「J3・百年構想クラブ社員向け視察研修会」を岡山で実施

「J3・百年構想クラブ社員向け視察研修会」が4月に行われ、J3クラブとJリーグ入会を目指す百年構想クラブのスタッフらが2班に分かれて、J2クラブのファジアーノ岡山のホームタウン各所を視察した。

岡山は2009年のJリーグ入会以来、熱心なホームタウン活動などを通して着実に地域に根差し、リーグ戦の成績も向上してきた。J2の中でもモデルクラブの一つといえる岡山が、どのようにホームタウンと関わっているのか。その延長線上にある集客力について、参加者が自クラブと比較しながら情報を持ち帰り、今後のクラブ運営に生かすことを目的に実施された。

第1日目には岡山が運営するフットサルパークやオフィシャルグッズショップを見学。ホーム

スタジアムのシティライトスタジアムでの説明会では、岡山の小川雅洋 常務取締役がクラブの概要を説明し、同じく上條仁志ホームタウン推進室長がホームタウン活動、業務部（チェック・商品・イベント担当）の岡本龍平氏が集客に関連したスタジアムでの魅力づくりについて話した。リーグ戦が開催された2日目は、ボランティアスタッフミーティング、クラブを応援している近隣の商店街を視察。スタジアムでは充実するグルメを実際に味わった。

同行したJリーグ競技・運営部の石井正明チーフは「J3クラブのホームタウン市街地ではなかなか見られないホームクラブ色（のぼり、ポスター、飲料自販機や、商店の自主的ポスター掲示など）を体感できたこと」、「商店街振興組合理事長の話を聞けたこと」、「数値（データ）に基づいた計画的なホームタウン活動や集客策のプレゼンテーションを聞けたこと」、「ボランティアの熱心な活動を視察できたこと」などを収穫に挙げた。

市民クラブとしての基本姿勢などについて話した小川常務



©Jリーグ

